

(組織開発)

**みんな明治小のなかま**  
**～大人も子どもも協働する学校づくり～**

大阪市立明治小学校

## 1. 研究主題設定の理由

昨年度、研究主題を「みんな明治小のなかま～自分も他者も大切にする子どもを育てる道徳教育～」とし、「特別の教科 道徳」を中心に研究を進め、実践を重ねてきた。

業務の多忙化・コロナ禍による教職員の対話の減少、子どもたちとの心理的距離など大人も子どもも対話する時間が減少していった。コロナ禍における仲間づくりの大切さを改めて実感できるように主題を設定し、主題に迫るための手法を教職員全員で探ってきた。様々な収穫がある一方で、道徳教育という大きな枠組みでの挑戦だったため十分とは言えない部分も見つかる研究となった。

子どもたちの実態把握に指導者の教材解釈を重ね、その上で中心発問を考えることで、子どもたちが教材の内容を自分事として捉え、考えるようになったことは今後の授業にも生かせる成果であった。一方で、授業で考えたことが実生活の行動に結びついているかを確かめることができなかった。考えたことを行動へと移し、仲間づくりをさらに進める研究の必要性を感じた。

## 2. 研究の趣旨

子どもたちが自分や友だちのことを大切にしながら関わり、仲間意識を高めていくことができるように、授業の中に協働する場面を設けることを今年度の研究の軸とする。課題解決に向けて考えを出し合ったり、新たな活動を創造するためのブレインストーミングをしたりするなど、子どもたちが協働する姿が多く見られる研究を目指す。また、子どもだけでなく、研究を通して大人も協働することでよりよい職員集団を目指すという思いも込められている。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

**視点① 子どもが自分の力を発揮しながら関わりあうことができる協働場面の設定**

- 協働する場面で友だちに進んで関わろうとする子どもの育成を図る。
- 協働する場面で自分の力を生かそうとする子どもの育成を図る。

**視点② 教員が持ち味を生かしながら授業づくりができる場の設定**

- 所属するチームの活動に貢献し、同僚性を高める。
- 少人数のチームに分けることで、主体性を高めたり対話を増やしたりする。
- 所属のチームを希望性で決定し、主体的に研究に取り組めるようにする。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- チーム主体の検討会を継続する中で、同僚性が高まっていった。学年団とは別に継続して関わり合うことができる場があることの良さを実感した。
- 事後検討の場づくりを行い、会を重ねるごとにチームのメンバーの視点や課題意識への理解が深まっていき、関係性もできていったため、話し合いが円滑に進むようになっていった。
- チーム制を取り入れることで分校と本校の交流が増えた。その分、分校教員の授業を参観する機会、分校教員が本校児童に授業をする機会が増えお互いに良い刺激を与えることができた。
- チーム制を取り入れることにより、チーム全員で指導案の検討、参観の機会が設けられた。そのことで全員に授業力の向上の機会が与えられた。
- 職員室で学年以外の先生との授業に関する対話が増えた。

### (2) 今後の課題

- 学年団のつながりを大切にしたいという思いを持っている方にとっては、メリットを十分に感じ取りにくかった。
- 少人数での検討は、全体での検討と比較して深まりが生まれにくい。
- チーム主体の活動によって学年の協議機会が減った。